

## 波動値の“S”ってなに？

少し長くなります。

お急ぎの方は、**太字**の箇所を拾い読みなさってください。

長年アクアタック研究室の波動測定をご利用くださっている方々から、最近、こんなご質問をいただくようになりました。

### いまさら ですが … 波動値の“S”って なんですか？

-18 +14 +270 … +59,000,000 S +3.8 S +52.6 …

左から右に上がっていくこの並びのなかで、「Sがわからん」というわけですね。あるいは、Sがつかなくても、4桁を越えたあたりから???になる方もいらっしゃるかと思います。キャベツの値段が4桁になっているような戸惑いかもしれません。

で、ご質問の答えを先に言ってしまいますと、

### 波動の高さは無限 それをリアルに表現するための“S”

つまり、数値が大きくなっていくと、桁数が多くなったり、 $+10^{45}$  (10の45乗<sup>じょう</sup> = 10を45回掛け合わせる) という書き方になったりして、わかりづらい。そこで、**+100億 = S +1** として、読みやすい表し方にしました。

みなさん、100センチを1メートルに置換えることは、普段なさっていますね。机の高さならセンチですが、ビルの高さならメートルで表します。それとおなじ要領です。

“S”は、「**単位を切り替えますよ**」というお知らせなのです。ちなみに、Sは、Shift (移す、(位置を) 変える) のSから取っています。

\* \* \* \* \*

いやいや やっぱりわからん  
波動測定って -21~+21 でいいんでしょ？  
なんでこんな気の遠くなるような数値を使うの？  
それに 波動値は無限って？

1990年頃江本勝さんによって始められた波動測定は、【±21方式】<sup>1</sup>でおこなわれてきました。ここでは、「+15～+21 は良好、+21なら最高。その上はない」といった評価基準が設けられています。いまでも、多くの測定者がこの方式を採用しておられると思います。

これは確かになじみやすい。それはきっと、小学校以来の“100点満点”に慣れてきたわたしたちには、最高点がはっきりしていて目標が明確だからでしょう。

しかしながら、【±21方式】を採用しつつ、それより上の数値も出している、という測定者の方も少なからずおられます。たとえば、「人の波動は+21が最高だが、サプリメントなどでは+50が出ることもある」という具合です。

そもそも、この宇宙に波動の上限はないでしょうし、あったとしても人間にはわからないはずですから、

### 上限を設定すること自体に無理がある

といえます。棒高跳びの高さだってそうですよね。「ここが満点、それより上はなし」なんていうポイントはありません。

そういうわけで、アクアタック研究室も“満点方式”ではないのです。

### まあ確かにね

### そやけど アクアタックの数値は大きすぎませえ

ごもつともです。みなさんがアクアタックの数値に困惑されるのは、そのあたりでしょう。

ですが、決して、むやみに数値を大きくしているわけではありません(こっちだって大変なんですから …)。そうした数値がどうしても出てくるので、素直に受け入れざるをえないのです。

それに、

### 宇宙の広大さを考えたら 文字通り天文学的な数値の方が 波動の実態をリアルに反映しているのではないのでしょうか

波動の世界は四畳半やワンルームではありませんものね。

\* \* \* \* \*

ここから話の後半に入ります。

---

<sup>1</sup> 21 のほかに、20 や 100 で表現する方式もありますが、上限・下限を定めている、という点ではおなじ考え方です。

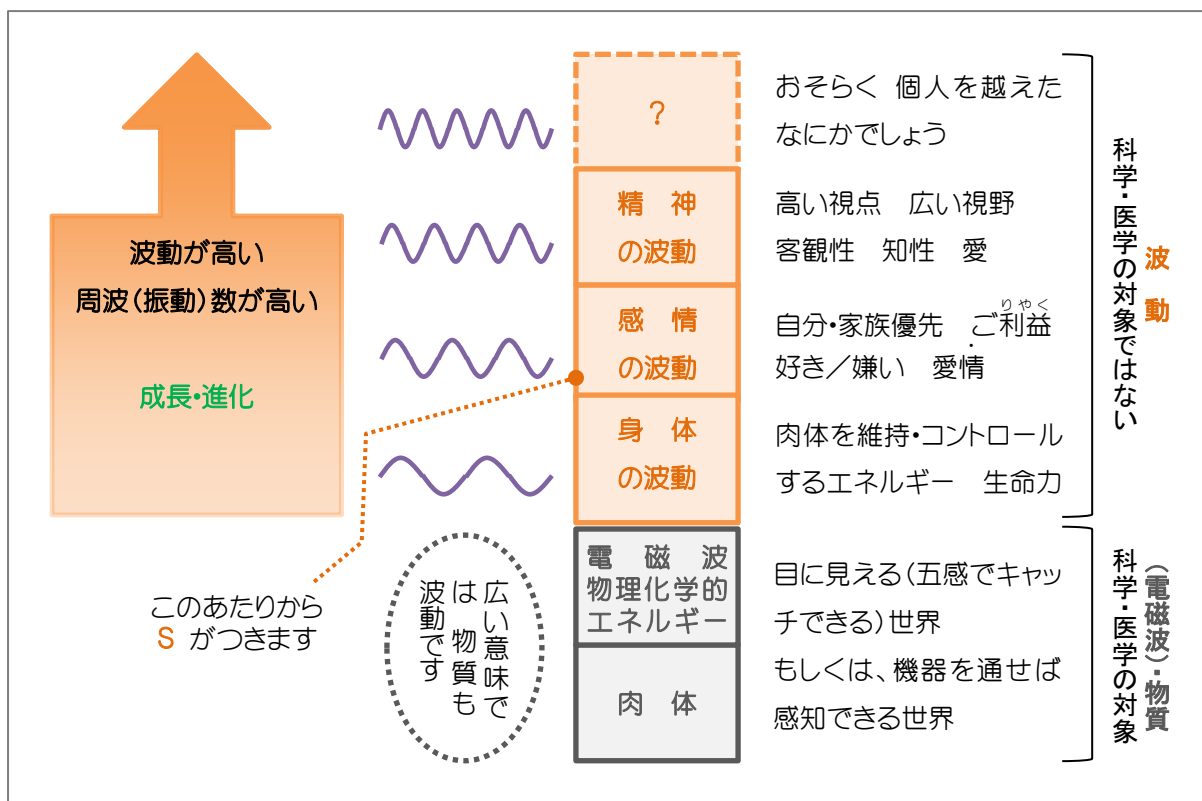
## するってえと アクアタックのモノサシって どんな感じなんですかい？

では、アクアタックは、どのようなモノサシを使って測定しているのか、具体的にご説明してまいりましょう。

まず、アクアタックのモノサシは、人間を構成する“波動の層”をモデルにしています。

### ひとりの人間は 周波(振動)数の異なるいくつもの層が重なった ミルフィーユ構造になっています

こんな感じですよ。



波動値＝周波数ではありませんが、「波動が高い＝波動の周波(振動)数が高い」と見ていただいで間違いのないでしょう。

そして、現在、アクアタックの測定では、身体波動～精神波動までの数値を出すことができています。ただ、それぞれの間に明確な境界線はなく、連続していることもあって、ここが感情、ここが精神、というような示し方はしておりません。

ちなみに、「波動が高い」という方向は、「成長・進化」の方向でもあると思います。わたしたちは、「あの人、成長したね」「そうだね」と、“成長”に関しておおむね共通のイメージを持つことができますが、それは、わたしたちがこのモノサシを潜在的に共有しているからではないでしょうか。また、それだからこそ、このモノサシを使った測定も成り立つのだと思います。

## 人のモノサシ なんとなくわかりましたあ～ じゃあ サプリメントや化粧品を測定するときのモノサシは？

### おなじです

というのは、実際の宇宙がどうであれ、わたしたち人間(地球人)に捉えることができる宇宙の姿は、この“人のモノサシ”に対応するものに他ならないからです。つまり、携帯電話のように、こちらの周波数に同調するものだけがキャッチできるわけです。

ですから、サプリメント、化粧品など外界のものであっても、人間の目に映るものであれば、このモノサシで表現できるはずなのです。

### なるほどお … 深い … あと もうひとつわからないんですが サプリメントや化粧品も 測定値にはSがつきますよね 「サプリメントなのに精神波動の高さ」って どうゆーことですか？

そう思われても不思議ではありません。物質でありながら精神レベルの波動を持つ、というのは、確かに奇妙なことです。私も長年不可解でした。ですが、こんなことは考えられます。

### 作り手(あるいは販売する人)の意識が反映している

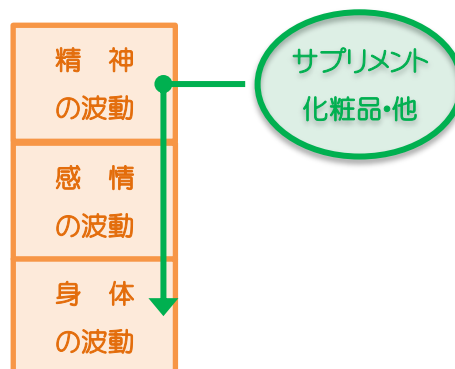
これは、会社が分裂しかかっていたり、無理なスケジュールで製造していたりするときに製品の波動が落ちていた、という経験から来ています。逆に、いい心境の会社は、製品の波動も高いです。

### うわ！ 責任重大！ でも その精神レベルの波動が身体にもいい作用をするんでしょ？

そうです。それはたぶん、こういうメカニズムです。

直接には精神のレベルに働きかける  
精神の波動が活性化することにより  
感情や身体の波動も活性化する

「病は氣から」という言葉がありますが、「健康も氣から」  
なのですね。



もちろん、ここでの話は、“波動の働き”に限られたものです。サプリメントも化粧品も、体に有効な物質成分を含んでいるわけですから、当然、肉体や物質に直接作用する“物質面の働き”もあるわけです。栄養学などの化学分析は、この領域を担当しています。

\* \* \* \* \*

最後に、人を測定した場合の少し例外的な波動値について、参考までに補足させていただきます。

1. **【松果体】が+5桁** … 脳しょうかたいのなかに「松果体」という内分泌器官があります。体内時計に関係するホルモン=メラトニンを分泌しているところですが、哲学者のデカルトは「動物靈魂の貯蔵所、自己の存在する場所」といい、スピリチュアルの世界では「超意識を開くところ」といわれています。

【肝臓】【腎臓】など器官の波動を測定すると+1~2桁で、【松果体】も普通はそうなのですが、波動的な感受性が高い方の場合、身体波動を超える+3~5桁になることもあります(こういう方は、【右脳】も高めに出やすいです)。

2. **感情・精神の波動にSがつかないことも** … 感情や精神の波動がSのつかない+7桁などになることもあります。また、身体波動とおなじ+2桁やマイナス値になることもあります。こうなると「病は氣から」、きっと体の元気も奪います。

ちなみに、脳波やチャクラの波動値も同様です。通常はSがつきますが、単なる+2桁やマイナスになることもあります。

\* \* \* \* \*

おもしろなってきましたがなー！  
もっと勉強したろ  
なんか ええ本ありまっか？

では2冊ほど。

1. 『バイブレーション・メディスン —— いのちを癒す(エネルギー医学)の全体像』

(リチャード・ガーバー／著、日本教文社)

波動医学のバイブル。素粒子物理学や人のミルフィーユ構造に始まり、チャクラ・東洋医学・ホメオパシー・花療法・宝石エリクシル・色彩療法などの位置づけにも言及しています。

2. 『**波動の法則 —— 宇宙からのメッセージ**』（足立育朗／著、ナチュラルスピリット）  
難解でほとんど理解不能ですが、従来の物理学から波動の世界までを見通している“周波数”の観点は、ぜひ知っておいていただきたいです。  
また、アクアタックの大きな数値が独りよがりでないことも、ご理解いただけるでしょう。
3. そのほか、アクアタック研究室ホームページ(<http://www.aquatack.com>)の「資料部」からも、各種資料をご提供しております。『**波動の入り口**』『**ひとのなりたち**』『**人(犬・猫・鳥)の波動値**』『**《もの》の波動がわかると …**』『**物品・製品の波動値(人への作用)**』など。  
“S”についての数学的な説明をお求めの方は、『**波動値の変換方法**』をご覧ください。

#### postscript

「Sってなんですか？」「波動が高いってどういうことですか？」  
今回の資料は、そんなお問合せから出来上がりました。  
一見、「いまさら？」。しかし、そうではないと思います。  
個人的な感想ですが、波動測定が始まって20数年、この基本すら問われることなく来てしまったのではないのでしょうか。そう考えると、これらのご質問は、むしろ、波動(測定)の根本にアプローチする進化(深化)形のものに思われます。  
波動の世界は次のシーンに進もうとしているのかもしれませんが、そんな折に資料作成の機会をくださったみなさま、感謝申し上げます。